

慶應義塾大学ビジネス・スクール

連結財務諸表ノート

はじめに

5

わが国でいわゆる“会計ビッグバン”が始まったのは、2000年3月期決算からのことである。不透明といわれたわが国の会計制度改革が、本格的に始まった時だった。その改革内容の重点は次の3つである。

①連結 ②時価主義 ③キャッシュフロー

第一の改革が、連結決算への移行である。

10

連結経営の時代といわれているが、わが国では30年以上も前から、連結会計制度が議論されてきた。大型の企業倒産事件が発生し、後に子会社を舞台にした粉飾決算が露見するたびに、連結会計が議論の俎上に乗せられてきた。しかし改革は遅々として進まなかったのが実情だった。

今日に至り株式公開企業を対象として、連結財務諸表が主要財務諸表とする制度に変わった。当面は親会社の単独財務諸表も並列表示されるが、経営活動を読み取る財務データの中心は、連結財務諸表に移ったのである。

15

ただし連結が中心といっても、財務諸表分析のアプローチが、単独のそれと大きく変わるわけではない。連結財務諸表は企業グループを一つの会社とみなして、作成されるに過ぎない。企業主体を法的な法人単位でとらえるのではなく、企業グループ全体でとらえる。一つの会社とみなして分析するという点では、分析の基本は変わらない。

20

連結決算の実務手続きに関していうと、実務は非常に複雑で厄介である。世界に散らばる関連企業からデータを集めて、決算手続きを進めるのは想像するよりはるかに難しい。しかし連結の概念自体は、いたって簡単である。大雑把な言い方をすれば、連結財務諸表は、グループ企業全部の単独財務諸表を合算したものに過ぎない。グループ企業のB/SとP/Lをそれぞれ作り、集め、合算して調整を加えたものに過ぎない。ただ連結特有のテクニカル・タームがいくつか登場するので、難しいように見えるだけである。

25

このノートでは、連結財務諸表を見て分析に困らない程度の範囲で、用語や構造について簡単な解説を加えよう。

30